

は、

市民の勢いに押されて風前の灯火

ルカシェンコ体制は、

大統領選直後

## 大統領選から 1 年 ロシアに傾斜するベラルーシ

ロシア NIS 貿易会・ ロシア NIS 経済研究所所長 服部倫卓

はいまだに権力の座に居座っている。

察により逮捕された。

らの支援も得ることで、ルカシェンコ

刀を行使し、ロシアのプーチン政権かかとも思われた。しかし、躊躇なく暴

年八月九日に投票が実施された大統領ナーでもあるベラルーシでは、二〇二〇ロシアの西隣に位置し、統合パート

破口は見出せずにいる。こうして、情運動には非暴力を貫いているので、突抗の姿勢を崩そうとしない。ただし、ルカシェンコ体制を拒絶しており、抵

勢は膠着化している。

客機強制着陸事件であった。これは、最たるものが、五月二三日に起きた旅うのない出来事が頻発している。そのり、独裁体制の末期症状としか言いよ

ベラルーシ上空を飛行していたライア る格安航空会社)の旅客機が、ルカシェ る格安航空会社)の旅客機が、ルカシェ ンコの命により、ミンスク空港に緊急 一機に搭乗していたベラルーシの反体 制派ジャーナリストのロマン・プロタ せヴィチ氏が、同行していたガールフレンドとともに、空港でベラルーシ

(イラルーシ当局は、当該機に爆弾が とがルカシェンコ政権の主目的で で、反体制派ジャーナリストを逮捕す で、反体制派ジャーナリストを逮捕す で、反体制派ジャーナリストを逮捕す ることがルカシェンコ政権の主目的で あったという点で、衆目は一致してい

者の間では、プロタセヴィチ氏を見せだのか? これについて、現地の有識なぜルカシェンコ政権は暴挙に及ん

70

選挙の後、

選挙の不正に憤り、

独裁者

アレクサンドル

・ルカシェンコの退陣

を求める市民たちによる運動が巻き起

との見方が強い。 恐怖心を植え付けることが目的だった 寄せようとルカシェンコ体制から逃れ ることはできないと見せつけ、 しめ的に逮捕して、 世界のどこに身を 国民に

る らに六月二四日には、 加制裁を導入する方針を決定した。 二四日の首脳会議で、ベラルーシに追 えなくなった。EUは事件翌日の五月 シ問題の当事者として前面に出ざるを か腰が引けていた。しかし、ライアン エアー機事件で、否応なしにベラルー てはいたが、これまでその対応はどこ U)は、ベラルーシ情勢に関心を寄せ る石油製品の輸入禁止も決定してい ラルーシと隣接する欧州連合 主力輸出品であ Ê

れ、 出されたとなれば、 コ体制が通常の形で政権を維持するこ 玉 国際社会からも厳しい対応を打ち 民の多数派 から拒絶反応を示さ もはやルカシェン

> とは困難である。そこで鍵を握るのが、 ロシアの出方である。

結んでいる。その後、条約は休眠状態 に「連合国家」を結成する旨の条約を ロシアとベラルーシは、 九九九年

Ihar Losik

でプロセタヴィチ氏(左) や同じく反体制派で長く獄中にある - ドを掲げる人々

統合を前進させるための二八項目に及 う路線に転じた。そして、現在両国 星国としてしっかりと固定化するとい にあったが、 ら、この条約をテコにベラルーシを衛 ぶ「連合プログラム」を策定 ロシアは二〇一八年頃 は が

会が、ルカシェンコの暴力支配 調印する見通しである。

中であり、この秋にも正式

に陥 側が要求する統合条件を呑む の依存を深め、 しかし、ルカシェンコは窮地 を加えるのは、当然ではある。 を非難し、制裁という形で圧力 しかなくなる。 人の独裁者の保身のために、 EUをはじめとする国際社 れば陥るほど、 ベラルーシは プーチン政 ロシア

なジレンマだ。

後退し

かねない。

これ

は深

実質的にロシアの保護国